「保育は歌で」 笑顔たやさず60年

瑞宝単光章受章 平川の82歳保育士・東さん

鹿児島市平川町の福平保育園で働く現役保育士、東昱子(ひがしいくこ)さん(82)が叙勲瑞宝単光章を受章した。「保育は歌で」。保育士だった母からの教えを胸に、約60年間、子どもたちと向き合ってきた。最近、共働き家庭が増え、多忙な親たちが増えたと気をもみつつ、変わらぬその笑顔で、生涯現役を貫きたいという。

東さんは旧吉田町(現鹿児島市)で、父、故大丸さんが住職をする寺に生まれた。大丸さんが敷地内に保育園を設立し、母の故メキさんが保育士として働いた。幼いころから園児たちの元気な声が敷地内に響き、東さんは近所に赤ちゃんが生まれるとすぐに見に行くような子だった。

東さんが18歳のころ、大丸さんから「昱子は保母に向いているよ。これから幼児教育が大切になるから」と言われた。以来、母メキさんから保育士として園児への指導の方法やたたずまい、保育士の基礎のすべてを教えこまれた。

母の教えのなかで、特に役立ったのが「保育は歌でしなさい」だ。例えば、子どもたちに砂場遊びをさせる時、「さあさ、砂場で遊びましょ」とこれからやろうとすることを節を付けて口ずさむと、子どもたちが振り向く。見守られている安心感を与え、保育士も遊びの輪の中に入りやすくなる。「母の教えのおかげで保育士を続けてこられた」と東さんはいう。

1957年に保育士の資格を取得。6人きょうだいのうち、東さんを含めて4人が保育に関わる仕事に就いた「幼児教育一家」だ。

現在働いている福平保育園は64年、夫の盛暁(もりあき)さん(83)と2人で竹やぶを切り開くところから始めてつくった。翌年開園。東さんは給食を出すために調理師免許を取り、送迎用のマイクロバスの運転免許も取得した。盛暁さんも同じく寺の生まれで、現在同園を運営する社会福祉法人理事長をつとめる。現在0~5歳の園児約70人に対し、常勤の保育士15人、非常勤の保育士3人がいて、長男の大円(だいえん)さん(53)が園長だ。

東さんには最近気がかりなことがある。子どもたちの家庭環境だ。日が落ちないうちに親に引き渡したいと思うがなかなかできない。共働き家庭が増えたこともあり、迎えに来る親が疲れ切っている。引き渡しても「この後からがつらい」とこぼす親もいる。

東さんは「お子さんからお母さんの愛情をいっぱい感じましたよ」「しつけが上手ですね」とお世辞ではないほめ言葉をかけるようにしているという。

子どもたちの中にも、帰ってもつまらない、と家に帰りたがらない子も。「親には家庭教育を大事にしてほしい」と東さんは願う。

年齢のせいで、さすがに手足の力が弱くなり、赤ちゃんを長時間抱くことができなくなったが「現場にいられるのは幸せ。いつまでも保育士を続けたい。人を大切に、いつも笑顔でいれば保育はできる」と東さんは話す。

「これから生きて伸びていく子たちと、真剣に向き合っていきたい」 (木脇みのり)

「いい人材に恵まれて、ここまでこられた」という東昱子さん=鹿児島市平川町の福平保育園

多忙な親支え 子らと向き合う